

東京発・ラテンライブを楽しむためのバイブル

SALSA 120%[®]

FREE!

VOL.202
Winter

2017 冬号

www.salsa120.jp

2大オーケスタ夢の競演

Cuban Fantasy en Vivo! II



Orquesta Del Sol & Orquesta De La Luz

Special Guest 織田哲郎 & 大黒摩季

3/18 (土) 大田区民ホール・アプリコ 大ホール

with The Big Band of Rogues



インタビュー **グアコ**

連載

日本とキューバの新しい関係

カルメンのスーダラ何でも相談室
ヨッシー行くぞ! ラテン大使珍道中
サチキータのViva! ライブ人生
ラテンダンスの流儀

注目のイベント
お薦めCD紹介
スポット探訪

招聘はウノ・ミュージックへ

Los Muñequitos de Matanzas from Cuba
Tipico Oriental from Cuba
Omara Portuondo from Cuba
from Brazil
from Hungary
from India
from Mexico

Uno Music ▶ <http://www.uno-music.com> E-Mail ▶ office@uno-music.com

THE VERY BEST OF DEL SOL ORQUESTA DEL SOL

結成38年。満を持してのベストアルバム。これぞ「ザ・ベリー・ベスト」!!

オルケスタ・デル・ソル
『ザ・ベリー・ベスト・オブ・デル・ソル』

UNOCD-101 税込価格 ¥2,700
発売元:ウノ・ミュージック 配給元:アオラ・コーポレーション

新ボーカリスト、ピアノ参加の昨年のお台場ZEPFでのライブ2曲を含めた全14曲は、選りすぐりの名曲揃い! お求めはSALSA120%オンラインショップにて
<http://salsa120.shop-pro.jp/>

NOW ON SALE

高藤タカヤ × 奈奈ガンタリーナ

DOS LATIDOS
"DISCOVER OUR NEW STANDARDS"

鋭敏な音楽的センスとラテンの遺伝子を掛け合わせてつくりあげた極上のDUOサウンド。
あの名曲が? 斬新なアレンジと、ぶ厚いオーケストレーションは必見!
最少人数サルサ? デュオ? ライブは一体どうなるのか...

CDのお求めは「el ARRULLO」Web Shop、AMAZON 又は全国のCD取扱店にて

NEXT LIVE <https://www.facebook.com/doslatidosjapan/>

2017.3/4(sat) 長野県飯田市 BEAVER
START 19:00~ 前売3000円 当日3500円 <問>0265-24-4818

2017.3/5(sun) 岐阜県岐阜市 Jazz Spot After Dark
START 19:00~ 料金4000円 <問>058-253-9775

配給元:アオラ・コーポレーション 〒167-0051 東京都杉並区西新井2-6-3 エスプランサ尾輪202
TEL:03-6356-6957 FAX:03-6247-1265 <http://www.ahora-tyco.com>

鳴のラテン
コーラスグループ
六本木
Keystone Club
に初登場!

LAS PERLAS
エピソード2 ~妄想の剣~

2017年、キャバレー・プライオ物語は第二章の扉を開く。

2017.2.16(THU) ROPPONGI KEYSTONE CLUB TOKYO
MUSIC CHARGE: ADV 3,800 YEN / DOOR 4,000 YEN / OPEN 18:30 / LIVE 20:00 (2STAGE)
キーストーンクラブ東京: 東京都港区六本木7-4-12 ジャズミンゼビル2F TEL 03-6721-1723 (電話予約受付11:00-0:00)

PARAISO <http://paraisoetm.wixsite.com/paraiso>

2017

NEW YEAR'S ISSUE

今年はどうなる?
一年に?

新しい1年のスタートです。
皆さんは新しい年を
どのように迎えましたか?
2017年の目標はありますか?
新たなスタートをした人
新しいことにチャレンジする人
新しい決意でリスタートする人
気持ちを新たにスイッチを入れた
ラテン音楽界の気鋭に
今年の抱負を伺いました。

Feliz



エリック・フクサキ(歌手)

ペルーという国に生まれ、日本の音楽を聴きながら育ち、その文化に憧れた僕は、夢を持って単身で日本に来ました。その日本で生活をしていく中で、あらためて故郷のラテン音楽にも目覚めました。25歳の僕にとってこれからの5年間は人生の一番大事な時期だと考えています。これからいまままで経験してきた事、吸収してきた事、出会ってきた人、歌ってきた音楽のジャンル、良いこと悪いことも含め、26歳になる2017年はそのすべての欠片が一つの形になる第一歩の年だと思い、日々大切に頑張ります!



鈴木千恵(ビブラフォン奏者)

小さい車に楽器と大好きなおもちゃを詰め込んで、仲間達と旅にでるぞ!というのが2017年のイメージです。自分のユニットである" Trio Project "のライブを積極的に行いCDを作成。座右の銘"ワクワク!"をみんなと共有したいです。パークリー音楽大学の卒業を経て、ファン・ルイスゲーラとの共演など貴重な経験を生かして、支えて下さっている沢山の方々に恩返し出来るように頑張ります! その為にも演奏はもちろん、作曲、編曲、そして新たにティンパレスをライブに取り入れれたり大暴れの1年にします!



片桐祐大(コンフォート・ソプリオ)

今年のコンフォート・ソプリオは、バンドの中心的な役割を担っていたメンバーが昨年末で脱退した事もあり、新たな出発の年になります。2017年は、オリジナル曲の着手等、更なるステップアップを図り、これまで以上に躍れるバンドを目指して参ります。酉年のソプリオも、よろしくお祈りします。



Julian El PILLO(歌手)

みなさんいつもほくもライブにきてくれてありがとうございます。ことしもいろんなイベントに参加しているうたをうたいたいです。とくにもっとにほんのうたをべんきょうしてにほんごでうたいたいです。ぼくがサルサバージョンでうたっている I love you はみんなが聞いてくれてすごうれしいです。3/18日はオルケスタ・デル・ソルとオルケスタ・デ・ラルスの Special ライブがあります。ぼくもすごく楽しみです。みなさんぜひきてください。いっしょに盛り上がりましょう。Los esperamos y que tengan todos un buen año 2017!



SAKURA(パーカッションリスト)

主人がこの世を去り、俯くばかりの日々を過ごした昨年の春。時間をかけ、少しずつ顔をあげ、見えたのは、大切な人との別れが教えてくれたモノ。私が生きて行く意味と、終わりがある事の美しさでした。空を仰げる様になった私は、全てを手放す為、一年間のキューバ留学を決定しました。何かを得る為に、何かを手放す。きつと、何かを掴んでいきます。残ったSakura y su Pinto con Pinturaは、新しい出発を求めて活動を続けます。明るい話題を日本全国に振りまけたら嬉しいです。



SHIBU(歌手)

2017年は背中に羽を生やすぞ〜。もっともっと動物的に、鳥や猿や像が鳴くように、歌い飛ばしたい。パタパタ〜。日本全国歌い巡ってえっちらおっちらしたい。日本語の言葉遊びをラテンのリズムに合わせて歌うこともやっていきたい。そしてカナヅチなので今年は泳げるようになりたい。目標はパタフライ! だ〜〜! リーダーを務めるソノバンド「Septeto ¡ORIENTE!」もどうぞご愛顧くださいませ! 2016年焼き立てほよほよキューバ録音、SHIBU初のCD『Ilusión』(イルシオン)も是非お試しあれ〜!



石川 勇人(パーカッションリスト)

今年1番の夢はニューヨークに行くことです。去年縁あってタイ、キューバ、上海の三ヶ国に行き現地の音楽、文化に触れ様々な事を感じました。でもやはりミュージシャンとしてはここは外せない!! 今年の世界のトップミュージシャンが集うニューヨークに実際に足を運びトップレベルの音楽、芸術を体感しに行きたいです。ネット社会の現代で、YouTube等では感じられないその場の熱気や振動や空気。やはり実際に足を運んで見たり聞いたりする事は本当に大切な事だと去年実感しました。今年には国内外問わずライブやイベントどこへでも飛んでいきます!!



ダーリン・saeko(ダンサー)

ずばり、2017年の抱負は、アメリカ発のストリートカルチャーのルーツとしてのラテンとアフロキューバダンス&ミュージックのマップを実体験しながら、描くこと。2016年キューバサルサダンスコンテストに優勝し副賞のキューバ行きチケットでお正月からキューバへ出発。プロジェクト「Somos mucho mas cuba」(女性たちによるストリートカルチャーのユニオンプロジェクト)参加後、初となるliveに出演します! 今まで自分を育ててくれたストリートダンスシーンの人たちと、ラテンダンスシーンで活躍されていた人たちが、結びついていくような動きになる予感120% 仲間大募集中です!



Amy Akaoká(歌手)

今年2017年は、サルサシンガーとして第2弾となるアナログインチシングルの発売が決定しています。さらに、ライブ、レコーディングともに、国内・海外のいろいろなミュージシャン・DJ・ダンサーとのコラボを今まで以上に自由に積極的にやっていく予定です。ラテン以外の音楽ジャンルの人たちともどんどんコラボしていきます。ソウル、ファンクのシンガーからサルサシンガーに転向した自分自身の今までの経験やそこから得た感覚も大切にして、新しい世代の人たちと一緒に、楽しくかっこいい事に挑戦していきたいと思っています。



マリオ・カストロ(ラテンアメリカ人日本代表)

この財団は日本であらゆるラテンアメリカ諸国の魅力を日本に伝えるために2年前に設立されました。疑う余地なくラテンアメリカの音楽や料理の魅力を伝えるためにいくつものペルーレストラン「新井商店」のシェフによるレシピヤスパーフードの紹介を載せた「ラテンアメリカの味」(全121P)を無料で配布しています。また12月2日(土)には16カ国の出身者の演奏とダンスの公演「ラテンカンドVol.3」を大井町きゅりあんで行うので是非見に来てください。2017年もまだまだ日本人に知られていないラテンアメリカ文化の魅力を伝えていきます。

Cuban Fantasy en Vivo! II

ORQUESTA DEL SOL & ORQUESTA DE LA LUZ
special guest: Tetsuro Oda and Maki Oguro



日本を代表する2大バンド、デルソル&デラルスに、それぞれ交流のあるアーティスト、織田哲郎と大黒摩季をビックゲストを迎え、サルサと J-ポップが合体! サルサ歴史の1ページを刻むこの奇跡的な一夜を見逃すな!

3月18日(土) 大田区民ホール・アプリコ 大ホール 17:30開演(16:30開場)
※開演(17:30)前に大田区立中学校吹奏楽部の演奏がございます。
共演:伊波秀進&ザ・ビックバンド・オブ・ローグス(17:30-)
ゲスト:ルイス・バジェ 伊波淑
予約:03-3750-1555(10:00~20:00)



BUIKA



2009年の「El Ultimo Trago」でラテン・グラミー賞を獲得し、さらに2013年の「La Noche Mas Larga」はグラミー賞にもノミネート、フラメンコをベースにジャズ、アフロ、ソウルの要素を取り入れた唯一無二の音楽世界を築くシンガーBUIKAの日本ツアー。人々の心を揺さぶる魂の歌声を4日は至近距離で、7日はオーケストラで堪能出来る。

3月4日(土) ブルーノート東京(1st17:00- 2nd:20:00-)
問・予約:03-5485-0088
3月7日(火) 東京・すみだトリフォニーホール
シンフォニック・スペシャル・ナイト(19:00-)
問・予約:03-5608-1212

ALFREDO RODRIGUEZ TRIO with RICHARD BONA

presented by QUINCY JONES PRODUCTIONS



史上に輝く名プロデューサー、クインシー・ジョーンズが惚れ込んだ逸材、キューバ出身のピアニスト、アルフレッド・ロドリゲスが3年ぶりに登場。新譜を携えて、リチャード・ボナとともに来日!!
3月7日(火)-9日(木) B+lue Note Tokyo
(1st:18:30- 2nd:19:00-)
問・予約:03-5485-0088



GUACO

Diego Rojas, Mark Melendez, Luis Fernando Borjas

(Photo L→R)

interviewed by Seiji Yamaguchi

待望の来日! という使い古してしまった言葉を今回のために取っておきたかった。長年待ち焦がれていたファンも多い "Super Banda de Venezuela" グアコの日本縦断ツアー。90年代に「グアコとパーニングフレームズのどちらを呼ぶか」という現場にいた記憶があるが、その話は頓挫し、今回やっと念願の日本初来日が実現。招聘元に大感謝だ。

日本ツアーの中間地点、東京・文京シビックホール公演前。グアコの顔といえる、グスタボ・アグアドは欠席となったが、ルイス・フェルナンド・ボルハス、ディエゴ・ロハス、新加入のマーク・メレンデスの3人の歌手に話を伺うことができた。

——以前からグアコ加入への願望を持っていた?

Diego 「グアコはベネズエラで最も有名なバンド。歌手になりたいと思ったと同時に、グアコで歌うことが夢だった。ラッキーにも3年前に叶うことができた」

Mark 「2か月前に加わった僕も同じだよ。ベネズエラ人歌手として皆が思うこと。タイミングが良かった」

——グアコ以前にはどんな音楽を? ディエゴは叔父にイラン・チェスターという大物がいるけれど、影響はあった?

Diego 「イラン・チェスターは叔母の旦那さんなので、血はつながっていないんだ。だから、小さい頃は知らなかったけれど、叔母と結婚してから彼と共演することになったり、影響は受けるようになった。それは僕だけではなく、マークもルイスも同じ」

Mark 「僕はアメリカで生まれたんだよ。両親ともベネズエラ人で、すぐにバレンシアに過ご

すようになった。父親はマラカイボより南のカビマス出身のスリア人さ」

——アドレセンテスに在籍経験のあるマーク。それ以前はイスマエル・ミランダなどのサルサ歌手のコーラスも経験したようだ。

Mark 「アドレセンテスには3年間在籍した。イスマエル・ミランダのほか、レイシート・カリオンやラロ・ロドリゲス、ドミンゴ・キニョーネス、ティト・ニエベス…。彼らがフロリダでライブを行う際のバックバンドのコーラスをやっていたんだ」

——マリアッチを歌いコンテストで優勝しているマークの動画を見たが。

Mark 「あー(笑)。サルサやメレンゲ、マリアッチなど6ジャンルぐらい、当日何が要求されるのか分からないTVコンテストだったんだよ」

——グアコのような長い歴史を持つグループで、たくさんの楽曲を歌にダンスに身につけることは大変だと思うが。

Diego 「音楽グループだけではなく、新しい仕事に就くときは何でも大変だけれど、幸いにもルイスのような頼りになる仲間がいてくれて世話をしてくれる。加入して3年だけれど、まだまだだよ」

横のルイスに見られないように、手で顔を隠しておべっかを使うディエゴ。

二人の若手はいずれも実力を備えた歌手だが、個人的な印象ではディエゴはとでも音楽を研究してきたオールマイティで、マークは歴代のグアコ歌手陣には見られないタイプの、USサルサのアーティストに共通する大衆的な気配を感じたりする。

グアコのレコーディングにクレジットされてから20年は経っているだろうか。当時のイカした兄ちゃん歌手から、大きく成長したルイ

INTERVIEW

ス・フェルナンド・ボルハス。ネルソン・アリエタやホルヘ・ルイス・チャシン先輩歌手が抜け、年少者の新加入となったが、重責など心情的な変化はあった?

Luis 「重責感は加入した若いときからあった。グアコという有名なバンドで、十数人の優れたミュージシャンのフロントで歌うのだから。自分はネルソンのような歌手になりたく、幸いにもグアコで活動してきているけれど、まだまだ勉強中さ」

——ベネズエラのスーパーバンドとして長年活動してきて、世界的な評価を獲得するまでに時間をかけてきたように思うが、こうなる確信のようなものはあった?

Luis 「グアコの音を初めて聴いたとき、それは思っていた。長くこのグループで歌おうと思っただけで、世界の音楽を聴くようになって、どこにもグアコのような音を出す音楽家がいらないことを知り、その確信はずっと続いている」

スリアの伝統にサルサやジャズファンクなどの要素を加え、革新的なサウンドを開拓してきたグアコ。一時的にグアコ風を演奏するミュージシャンはこれまでにいたが、自身のサウンドとして表現するフォロワーはいないのだろうか? 近年活躍している若いデュオ、ガイタも取り入れるカイボなどはどう?

Luis 「グアコの音とカイボは全く違うよ。彼らはポップスだ。ガイタ、サルサ、ジャズ、ファンクをひとつの曲でフュージョンさせるのがグアコ。あ、彼らを否定してののではないよ。彼らのことは小さい頃から知ってるし」

Diego 「カイボは元々(ベネズエラの)カリブソをやっていたんだ。後からアフロ・ベネズエラとポップスをミックスして、彼らなりの音を模索するようになったんだ」

——日本でのライブも6公演終えたが。

Luis 「とても幸せに思う。新しい人たちにグアコを知ってもらうことが今回のツアーの目的のひとつ。チケットを買ってくれたほとんどの人が日本人で、ベネズエラ人は少なかったと聞いている。ソールドアウトも出た。本当に幸せなこと」

日本公演終盤では、ラテングラミーの授賞式典への参加もあり、甲斐あって見事最新アルバム『HISTORICO 2』がグラミー獲得。屈強なサウンドは、またさらに飛躍を遂げることは確か。変化し続けるスーパーバンドの再来日を待ちたい。



(協力: MIN-ON 通訳: 太田亜紀)

カルメンのスターラ何でも相談室

Q

保育園のママ友と話していたら、なんとみんなセックスレスの悩み。育児疲れて別に「したい」とは思わないけど一生このままなのかしら…。(結婚7年・34歳1児の母)

A

わ～、なんか生々しいお悩みだね。仲間のペアちゃんは、バロバロ島の元ダンナとの間に子供2人、日本人ダンナの本田さんとの間に3人。その本田さん、目下家出中でネ、ペアちゃんにお金ねだる時だけ帰ってきて、仲良くするみたいヨ。だから結構セックスレスじゃないよネ～。メルセちゃんは、レディースの総長時代も、キャバクラのナンバーワン時代も、どっちかという硬派だからさ。今、超有名な有機農業研究家なんだヨ。こんなこと聞いたらでっかい有機大根でぶん殴られるヨ。なんかさ、子供ができる、急に「パパ」「ママ」になっちゃうらしいネ。私のバイト先、「ホテル・アムール」の斎藤支配人(65歳)のところは、南の島から来たお嫁さんのタマラさん(推定25歳)が、一人目生まれてからやっぱり「パパちゃん」なんて呼んでるけど、実は今二人目ご懐妊でびっくりだヨ。毎週末

のお決まりの「子豚の丸焼き」をパパちゃんが上手く焼いたら、ご褒美の「愛のベッドイン」らしい。だから斎藤さん、ご褒美のために汗かき必死の「子豚の丸焼き」。タマラさんは側で太鼓たたいで挑発的に踊ってるらしい。どンドン寝せてく斎藤さんが心配だけど、なんか野性的でいいよネ～。やっぱり「したい」と思わないのが問題だよネ。くれぐれもベッドは別にしちゃだめ! 「別々のベッド」なんて、もう外国では即、離婚だヨ。あ～そういえば、この前「岸のりこ」先生のベネズエラ・ソニー時代の曲「Camas separadas」(別々のベッド)を、久々に聴いたらやっぱり良い曲だね～って思ったヨ。CD「NORIKO」(UNOCD-006) ぜひ聴いてみて! え? 私はセックスレスかって? いやだ～、私はアイドルなんだヨ～。カルメン、今は・・・歌と恋愛しちゃってま～す! ス～ダララッタ～スイスイ!!



【Las Perlas ライス】
2/16(木) 東京・六本木 Keystone Club

筆者プロフィール

岸のりこ (DivaNoriko)
日本のバイオニアのサルサ歌手。キューバなどでの活動の後、2000年より日本で再活動。同年より2003年まで爆発的ヒットした本誌コラム「DivaNorikoのConsulta de Amor」でお馴染み。現在は独自のフィーリンの世界を追求、その延長線上にラス・ペルラスを企画、活動し話題を集めている。

いつもご相談・ご質問お寄せください
<http://www.salsa120.jp/>

New Release

SALSA SWINGOSA 『Cantando』



言わずと知れた日本サルサ世界のトップアンサンブル、大儀見元率いるサルサ・スウィングサのニューアルバムが9年ぶりにリリース! ということで、彼らの重戦車のようなゴリゴリのグルーブを待ち焦がれ、すぐに飛びついたファンも多いと思う。アルバムは、タイトル通り「歌」に力点を置き、佐藤竹善、CHAKA、石塚隆充といったフィールドの異なるシンガーを

国内盤CD [DULZULA] サルサ/日本

メルコチータ 『ソネーロ・ブラーボ』



メルコチータといえば、70～80年代のサルサ全盛期に、ジョニー・パチエーゴ、ウィリー・コロソ、ティト・ブエンテ、セリア・クルス、ジェリー・ゴンサーレスといったスター達との共演や録音で、熱心なサルサ・ファンには知られた存在。本アルバムは、そんな彼のベスト・ヒット集。実は彼、その特徴的な声で笑いをとるコメディアン系の俳優でもあ

国内盤CD [BEANS RECORDS] サルサ/ペルー

オルケスタ・メンドーサ 『バモス・ア・グアラチャール』



アメリカ・トゥーソンを拠点にする〈ハイブリッド・モダン・ルーツ・ミュージック・バンド〉キャレキシコ。そこで鍵盤奏者として活躍しているセルヒオ・メンドーサ率いるラテン・グループがこのオルケスタ・メンドーサだ。ここではセルヒオが子供のころより親しんできたクンビアをはじめ、メレンゲ、ボレーロ、チカーノ・ロック、マンボ、チャチャチャといった様々なラテン音楽のフレー

国内盤CD [ライス・レコード] ラテン/US

るそう。その一度聞いたら忘れられない、ちょっと鼻にかかった独特な歌声が、サルサでは逆にサポール(味わい)のある歌手として成功に導いたというわけだ。サルサの名曲から、キューバン・ソンの影響が強い自作曲、さらに祖国ペルーのアフロ系の名曲まで、幅広い選曲も実に良い。(MT)

ヴァーがグチャグチャに入り交じった混合音楽を展開。さらにキャレキシコのジョーイ・バーンズとジョン・コンヴァーティノや、ゲイブリエル・シルヴィアン(シクサ)、カミーロ・ララ(MIS)といったトゥーソン～メキシコの音楽シーンを代表する音楽家らがゲスト参加している。国境の街で精力的に活躍する音楽家らの底知れぬパワーが炸裂する痛快なサウンドが魅力! (AT)

世界へ羽ばたくラテン大使

《気仙沼 / 淡路島 / 沖縄 / 大田区編》

俳優の渡辺謙が復興支援のために作ったカフェレストラン「k-port」での「森村献スペシャル」による気仙沼復興支援ライブも6回目で毎回満席！でも復興はまだまだ。みんなも忘れないで。

初めての沖縄は野外で大黒摩季、アルベルト城間と共演。デ・ラ・ルス・パワーで彼らも会場もノリノリ！再演を硬く約束。

淡路島での小中高生のビッグ・バンド・ワークショップはもう10年続いているが、最近斎藤タカヤ(P) 渋谷和利(B) あびる竜太(P) の強力助っ人もあり、ついに「ステューデント・ジャズ・フェスティバル」で優秀するまでに！この小さな島はラテンが熱いのだ！

僕がリーダーをつとめるビックバンド「Orquesta Flores」に来日中の「ムニエキートス・デ・マタンサス」が演奏しに来てくれた。その圧巻の音・心持ちの美しさ！ラテンを伝えるのは斯くあるべしと学び、一回り大きくなった僕はラテン大使として世界に羽ばたくのであった。

《キューバ / メキシコ編》

前号でもお伝えしたが、僕のラテン大使の道はパパとママがラテン音楽で結ばれた時からすでに敷かれていた。その時から伊波家の家訓はラテン音楽を愛する事。それもあってパパをキューバに連れて行きたく「伊波淑と行く憧れのキューバ」ツアーを敢行。最年長74歳のパパから最年少は「Cuban Salsa Dance Contest 2016」パーカッション部門優勝の14歳のひごたくみまで総勢16名。まずは念願だった東京キューバンボーイズの見砂直照先生のお墓参りが叶い父子共々感涙。その後はルンパレッシン、サンテリア集会、ムニエキートス・デ・マタンサスとの再会と音楽漬け。我がパーカッションチームはチャンギート宅へお宮参り。ライブ会場でのセッションはもちろん、どこでも「オルケスタ・



1月…大阪
名古屋
札幌
2月…福岡

伊波 淑 (いほよし) プロフィール

1976年12月7日
東京都大田区生まれ。ラテンパーカッション / クリニシャン。ラテンジャズバンド「El Cencerro」ラテンジャズビッグバンド「Orquesta FLORES」リーダー。現在、オルケスタ・デ・ラ・ルスに在籍。様々なアーティストのライブサポートやレコーディングに参加。全国で活躍中！



PERCUSSIONIST
ヨッシー行くぞ！

ラテン大使珍道中

「デ・ラ・ルス」と紹介され、世界のデ・ラ・ルスを実感。

みんなの帰国後、東の間の男一人旅を満喫。モ口要塞を見渡せるバルコニーでワイン片手にラテン大使の活躍ぶりに一人乾杯。ハバナの海風の心地良さかワインの酔いか、僕の告白の一つ。実は小さい頃から父に一度も反抗した事がない。もちろんトライをしたが、あっけなく父の勝ち。老齢を心配したこの旅だが、食べる事と好奇心は僕の倍もあってエネルギー爆発。パパのビックバンド「ローグス」は今年結成50年！ずっとそれを支え続けて来られたのだからそのパワーもうなずける。もしかしたらパパ・コンプレックスなのかもしれないな。自己分析出来るようになった自分にも乾杯。う〜ん、ランゴスタが美味しい！

そして帰国の途中で出会ったメキシコ料理。タコス、ポソレ、トルティーヤと食い意地が張る。でもちゃんと在メキシコ日本大使や日墨協会の方々にお会いして、日本のラテンを大ブッシュ！

次はあなたの街にヨッシー行くぞ！

ラテン大使のご用命は
SALSA120%編集部までどうぞ！



1844 Logo Design
By Midori Hirai
Photo By
Naaki Aosaki

サチキータの Viva! ライブ人生!

社長夫人の座を捨ててラテン界へ飛び込んだ女サチキータ。年に100本以上のライブに通う日本一のエキスパート。ダーリン絶賛募集中♡

9/27(火) Salsa Swingoza @ 青山・月見ル君想フ
《男くさを味わえる度100%》

ニューアルバム「Cantando」発売記念ライブ！とにかくもう説明はいらないカッコよさ！マニーと岩村健二郎の二大巨頭がステージ中央にそびえ立ち、日本最強ホーン隊の音で歌いあげるのを聞いてると体の底から熱くなってくる！！

10/15(土) Kachimba4 @ 黄金町NightFire
《沖縄の風を感じる度100%》

みんな大好きオキナワンサルサ・カチンバ4！沖縄とキューバ音楽が絶妙にミックスされたオリジナル曲はいつでも聞いてもハッピーになれる☆来年はニューアルバム発売予定だそうで今から楽しみ♪

10/24(月) Joe Bataan
@ 代官山・晴れたら空にまめまいて

《音楽に年齢は関係ない度100%》
プガルーのレジェンド・ジョー・パターン5年ぶりの来日！でもそんな年月を感じさせない！さすがのパフォーマンス！！日本人で74歳で

1時間半歌いっぱなしでパーティ！！って叫んでジャンプできる人何人いるだろう？80歳でも90歳でも現役でいて欲しいなあ！

10/29(土) BANDERAS @ 下北沢440
《若さと勢いで踊らせる度100%》

結成してまだ1年ぐらいいのに1st 7inchリリースして、フジロックでこんなに快進撃のバンドを他に知らない。しかもライブの度にどンドンカッコよくなってるとすごすぎでしょう！？これからも目が離せない！！

11/18(金) 雨ふらしカルテット @ 都立大学Parade
《いい音楽にジャンルなんて関係ない度100%》

偶然ライブを聞いてからすっかりハマった雨ふらしカルテット。ラテンじゃないけどそれが何か？って感じでカッコいいものはいい！！ほぼ全曲オリジナルの曲がまたいい！！心にじわっと沁みる名曲いっぱいです。

11/25(金) ラテンアメリカンド
@ 目黒パーシモンホール 《異文化交流度100%》

中南米各国の唄と踊りが一度に楽しめる豪華なイベント！近くの国でもそれぞれ異なるスタイルで、文化の違いを教えてもらった一日でした。とにかく次から次へと各国のダンサーやミュージシャンが登場して豪華絢爛！ラム酒試飲やら着物の展示やら、盛りだくさん！ラテンアメリカのレシポ本のお土産までもらっちゃいました！



11/29(火) Las Perlas @ 原宿クロコダイル
《心は躍る度100%》

歌姫岸のり子に29歳のアイドル歌手カルメンが憑依して繰り広げられる前代未聞のキャバレーショー。ベアトリス(毛利真帆)とメルセデス(奈奈カンタリーナ)のVocalが交互に歌い上げる曲の素晴らしさ、寝りに寝った小道具にテンポの良いMCに笑いが止まらない！

石井幸子 ● ラテン文化に魅了されコスタリカの語学留学中にサルサダンスに出会い、エクアドル、キューバでダンス修行1年。ライブで踊る事に目覚める。昼はOLの顔を持つ。

サルサ愛好家を魅了する Caliの最新サルサ事情

サルサイベーターとして世界のサルサをどのように日本に還元できるかそれをテーマにコロンビアはカリに来ている。まさにライブ感覚で目の前で起こっていることを伝えたいが、あまりにも濃すぎる！

昨年(12/27)の巨大サッカースタジアムで行われた年末恒例の「Felia de Cali」と呼ばれる圧巻ライブでカリの人々の特別なイベントであると実感。GILBERT SANTA ROSA, RUBEN BRADES, DADDY YANKEE, その他5アーティスト。19時から始まり各アーティストが1時間以上の単独ライブ。トリは夜中の3時に始まったVICTOR MANUELLE。さすがに疲れて途中で退却するというあまりに贅沢な帰り方をしてしまった。最も印象的だったのはRUBENが唄う「El Cantante」。イントロが鳴り始

めるやいなやほぼ全ての観客が立ち上がり大合唱。RUBEN が HECTOR LABOR に贈ったこの歌のバックグラウンドと相まって思わず涙がこぼれてしまった。

陳腐な言い方であるが、正に「音楽が生活に根差している」。歌が始まると最初から最後までほとんどが合唱付き。私にとっては動画サイトで憧れの光景だったのが実現できてとても嬉しい！

老若男女からオカマまで観客のダンスレベルは正直なところ高いものではないが、手を取り合って表情豊かにステップをしている状況はまさにダンスしている光景にはかならない。家族や仲間といった集い。その中の音楽、そしてダンスと三位一体の豊かな光景だった。

日本人の全てが盆踊りが出来る訳ではないのと同様、カリ人皆なが上手に踊れるわけではないが、踊れる人達のレベルは世界チャンピオンを輩出し世界最高峰といっても間違いはない。

今回は、日本でも活躍するBeto & Liliana 先生が所属していたダンスカンパニー「SWING LATINO」でアクロバットと歌謡ショーのミックスした見ごたえあるショーも堪能することができた。改めてご紹介できればと思う。



ライブ盛り上がり様子

ラテン・ダンスの流儀

FILE
02

《筆者プロフィール》 村山健太郎。イベント。日本でサルサ・コングレスを開催している。また世界各国のフェスティバルにも精通している。

歌手生活60年、大御所はさらなる進歩向上をめざす

YOSHIRO 広石 歌手生活60周年記念コンサート 10/23 イノホール(霞ヶ関)

歌手生活60周年記念するYOSHIRO 広石 ラテン・コンサート 2016。「La mentira いつわり」で幕を開けたが、彼がカリブや中南米諸国でブレイクしていた1965年頃の録音を流しつつ、往時のスナップ写真をいろいろと映写し、やがて本人が登場して後半を唄うという粋な演出に魅了され、のっけからYOSHIROワールドに引き込まれた。

一時期難病に罹って苦しんだが、みごとに克服して60年間第一線で唄い続けてきたこともすごいが、いまなお新進気鋭の歌手のようにさらなる進歩向上をめざす姿勢に頭がさがる。たとえば彼が近年追求していることだが、外国語を解さない日本の多くの観客に歌詞を理解した上で傾聴してもらおうとする試みがそうだ。おなじみの「ククルクク・パローマ」を「鳩に生まれ変わった男」と改題し、その内容を説明してから唄うのだが、彼が唄い終わると観客が拍手しながら浮かべる充足感はYOSHIROの試みの成功をあざやかに物語っている。第1部で唄ったタンゴの名曲「人とは」にもそのことが言える。ろくに歌の内容を伝えもせず、原語で唄う歌手が多いが、彼らにお手本にしてもらいたいものだ。

この夜のハイライトはボサ・ノヴァの名曲「あなたを愛してしまう」だった。そもそもジャズ志向の歌手が唄うボサ・ノヴァは、あと

ノリになることが多く、本来の軽快さがそがれて重い感じになる。YOSHIROのボサ・ノヴァを聴くのは初めてだったが、さすが大御所というべき軽妙な語り口で、ぼくはその素晴らしさに心から酔いしれた。

最後に。第1部で師匠のために友情出演した川西みつこが唄った「シボネイ」、第2部でゲストのNORAが唄った「遠く離れていても」も極上の聴きものだった。伴奏を務めた東京サルサボールの好演にも拍手!

竹村 淳



【東京】音楽スポット ぶらぶら歩き

VOL.2 CAFE LA VIDA(キューバ料理店/広尾) by Seiji Yamaguchi

浜松町から広尾に引っ越してから1年ぐらい経っているけれど、移転後ようやくお店に向うことができた。キューバ音楽が楽しめるライブスポットであり、料理にも定評があるレストラン「カフェ・ラ・ビダ」。読者にはキューバ音楽ファンが多いので言わずと知れたお店ですね。広尾商店街を抜けた駅近のビルの階段を下り

ると、以前の浜松町に比べると、パーカウンターをはじめ内装のフレイクが増して、ちょっと驚いた。

この日行われていたライブは、Dos Libros y Amigos。毛利真帆(vo)をフロントに、フィーリンを軸足としたジャズ〜ポップ・スタンダードなど、キューバ過ぎジャンルを跨いで心地の良い音楽を聴かせてくれるカルテット。素敵なバンドで、ピタッときます。

馴染みのあるキューバ家庭の味から一歩踏み込んだ、アレクシス店長が作る料理が美味しく、不定期ながら創作キューバ料理のグルメイベントも開催しているという。この料理への熱心さが、カフェ・ラ・ビダの大きな魅力。ランチタイムも営業しているので、キューバ好きでなくても、是非気軽に足を運んでください。自分もキューバン・サンドばかりでなく他も試したいです! ラムももちろん、クパイ、サンティアゴ、ムラータなど、キューバに特化したラインナップ。ライブスケジュールはFacebookをチェック!



Dos Libros y Amigos の素敵なライブ



シェフ、アレクシス店長



フロアで明るく迎えてくれるローサさん

CAFE LA VIDA
東京都渋谷区広尾5-2-26 M2ビル広尾 B1F
TEL.03-3444-2525
<http://cafelavida.tokyo/>
<https://www.facebook.com/cafelavidatokyo/>

Japón Cuba

日本とキューバの新しい関係

text: Azusa Morimura

フィデル・カストロ前国家評議会議長の訃報が世界を駆け巡ったのは2016年11月26日、現地時間の25日だった。日本のトップニュースで数日に渡り報道されたのは記憶に新しい。

25年の長きに渡りフィデル・カストロと友人としての交流があり、今までキューバ共和国政府より3回勲章を授与された一般社団法人「日本キューバ関係販売促進委員会」の石野明理事長。再会の約束は果たせなかったが、両国の文化産業振興をサポートするという固い約束は続けて行くようだ。

キューバ大使館と社団法人が主催し、13年ぶりに開催された「第9回 Cuban Salsa Dance Contest 2016」は、キューバからルンバの神格的な存在のグループ「ムニエキートス・デ・マタンサス」を招へいし、ダンス部門20チーム、パーカッション部門14チームが、優勝賞品のキューバ航空券を目指して競った。また審査員にはキューバにゆかりが深いコシノジュンコも参加し、当日の様子はNHKBS「国際報道」でも特集が組まれた。この日は偶然にも安倍首相がキューバ訪問を果たした同じ日だった。

「ムニエキートス・デ・マタンサス」はキューバ政府より公人として初来日。その彼らの演奏と踊りは日本に数々の感動をもたらした事は言うまでもないが、彼らが帰国した後の11月に「ルンバ」がユネスコの無形文化遺産に登録されたという嬉しい発表



もあった。

コンテストの出場者は13年前より数段レベルアップされ、よりキューバの文化を深く掘り下げており、キューバ人顔負けのハイレベルな戦いとなった。今回から新設されたパーカッション部門には全国から応募があり、ルンバ、アフロなど幅広い多様性を感じる事が出来た。審査委員のムニエキートス・デ・マタンサスのメンバーは真剣に審査し、出場者へ拍手や暖かいコメントを送った。

ダンス部門の副賞であるキューバ往復航空券は優勝者が1名のために2位のJilly's(ペア)へ1枚が授

与。1位のダーリンsaekoは1月に、2位のJilly'sペアは3月にキューバへ行き、両国の文化を行う。また一年間、日本においてもキューバ大使館のイベントなどで活躍する。

3月には4年に一回開催されるWBCが日本で開催され、キューバの選手団が来日する。優勝を目指し社団法人はサポートしていくようだ。「2017年も両国の文化とスポーツ交流のために尽力していきます」と理事長の石野氏。今年も様々な文化交流が楽しめた。



第9回 Cuban Salsa Dance Contest 2016 受賞者名
【ダンス部門】
優勝 ダーリンsaeko(写真左)
2位 Jilly's(ジリーズ)(写真下左)
3位 MIKI CUBAN DANCE TEAM(写真下中)
【パーカッション部門】
優勝 ひごたくみ(写真下右)
2位 Coro de 東十条
3位 萩谷嘉秋
ムニエキートス特別賞 MIKI CUBAN DANCE KIDS TEAM



オルケスタ・デル・ソル

featuring 織田哲郎

&

featuring 大黒摩季

オルケスタ・デ・ラ・ルス

日本ラテン音楽の先駆者デル・ソルと
世界で活躍する歌姫NORA率いる
デ・ラ・ルスがついにアプリコへ登場!
さらにスペシャルゲスト織田哲郎と大黒摩季を
迎えた奇跡的な一夜!



Julian el Pillo(オルケスタ・デル・ソル)



Cuban
Fantasy
en
Vivo! II

★オルケスタ・デル・ソル
ゲスト: 織田哲郎

★オルケスタ・デ・ラ・ルス
ゲスト: 大黒摩季



森村 献
(ミュージカル・ディレクター)



ルイス・バジェ



伊波 秀進



伊波 淑

★伊波秀進&ザ・ビッグバンド・オブ・ローグス(東京キューバンボーイズJr.)

ゲスト: ルイス・バジェ、伊波 淑

ミュージカル・ディレクター: 森村 献

制作: ビッグバンド サービス クリニック いぼ ひでのぶ

制作協力: 株式会社Uno Music



NORA(オルケスタ・デ・ラ・ルス)

2017 **3/18** (土) 17:30開演 大田区民ホール・アプリコ 大ホール (16:30開場) (JR・東急線「蒲田駅」東口から徒歩3分 / 京浜急行「京急蒲田駅」から徒歩7分)

★開演(17:30)前に大田区立中学校吹奏楽部の演奏がございます。

料金: S席5,000円 A席4,000円 ※未就学児入場不可

チケット 2016年
発売日 10月12日(水)10:00発売開始

チケット 専用電話
Tel 03-3750-1555 (10:00~20:00)

オンライン チケット
On Line <http://www.ota-bunka.or.jp/>
※発売日から各公演前日00:00まで開催をご予約いただけます(24時間受付)

プレイガイド チケットぴあ
「Pコード:310-320」

■発売初日15:00以降は下記でも電話予約・窓口販売いたします(10:00~20:00)
大田区民ホール・アプリコ Tel.03-5744-1600 / 大田区民プラザ Tel.03-3750-1611 / 大田文化の森 Tel.03-3772-0700
主催:公益財団法人大田区文化振興協会 後援:キューバ大使館

